

キンダーブック じゃにあ 2月号

表紙の
絵から

ちゅうくんとにゃおくんがかまくらで遊んでいます。大きなかまくらはふたりで作ったのでしょうか。それともお父さんやお母さんが作ってくれたのでしょうか。雪で冷えたみかんもおいしそうですね。ほかにも雪だるまや雪うさぎなど、雪で作れる物について話してもよいでしょう。



いっしょにあそぼう

ねらい 友だちとの関わり方を知って、いっしょに遊ぶことを楽しみましょう。

「ちゅうくんはももちゃんとなゃおくんといっしょに遊びたいみたいだね」「どうしたらいっしょに遊べるかな?」「みんなならどうする?」と問いかけてみましょう。子どもたちが自分の思いをことばで伝えられるように、対話をしながら話を進めましょう。



「ほくもいれて」とちゅうくんが自らことばで伝えたことに注目しましょう。「ちゅうくん、『いれて』って言えたね」「ももちゃんもにゃおくんも『いいよ』って入れてくれたね」と、気持ちよくやりとりができたことにも気づけるとよいですね。

ちゅうくんたちがなかよく楽しく遊んでいる姿に注目させ、「お友だちに『いれて』『いいよ』が気持ちよく言えると、いっしょに遊ぶことができうれしいね」と友だちと遊ぶ楽しさが伝わるように話しましょう。



ゆきが ふったら...



ねらい 雪に興味をもち、冷たさや感触を想像しましょう。

つかい方のポイント 「雪に触ったことはある?」「雪の上に動物の足跡があるね」と誌面に注目してみましょう。雪を踏む音や感触、冷たさなどについても話しましょう。どんな雪遊びをしたいかも聞いてみると楽しいですね。

あわあわかいじゅう



ねらい せっけんポンプさんの泡で何が起るか楽しみながら読みましょう。

つかい方のポイント 「あわぷっしゅん」の台詞を魔法の呪文のように読んでみましょう。お風呂嫌いのねずみくんが、お風呂を楽しむ姿にも注目しましょう。いつも家でどのようにお風呂に入っているか話せるとよいですね。

「キンダーブックじゃにあ」を 保育にご活用ください!

絵本をつかった 指導計画の文例

コーナー	子どもが経験すること	保育者の配慮	5領域
<p>「いっしょにあそぼう」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 友だちといっしょに遊びたいときの関わり方を知り、身につける。 友だちといっしょに遊ぶことが心地よいと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたち一人ひとりのようすを見ながら、「いれて」「いいよ」などのことばでのやりとりができるように、必要に応じて仲介し支援する。 遊びをとおして友だちとの関わりが楽しめるように、保育者が配慮しながら、遊びが続くように支援する。 	<p>言葉</p> <p>人間関係</p>
<p>「ゆきがふったら...」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 雪に興味をもち。 雪遊びを想像して楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵本や図鑑など、雪のようすがわかる絵や写真を見せて、雪の性質（ふれると冷たい、とけて水になるなど）について具体的に伝える。 子どもたちがどんな雪遊びをしたいか自由に想像し、話せるように促す。 実際に雪が降ったり積もったりしたときには、雪遊びができるように支援する。 	<p>環境</p> <p>言葉</p>